

熊本学園大学付属中学高校通信

No. 105



卒業36年目に思うこと	奨学会 会長	月 田 求仁敬	1
熊本学園大学付属高等学校新校舎建築	建設実行委員長	栗 原 徹	2
『手 紙』	生徒部長	山 下 和 文	4
広島研修報告 中学二年生			5

卒業 36 年目に思うこと

奨学会 会長 月 田 求 仁 敬

私は、商大付属高校 16 期 昭和 52 年卒業
現在 55 歳になりました。息子と娘も学付に
お世話になり、奨学会の会長を 2 度させて
頂きました。私の印象では学付は私達がい
た頃の自由な校風の良いところを残しつつ、
勉強に、部活に頑張る素晴らしい学校になっ
てきたと思います。奨学会の行事などで学
校を訪問すると、生徒さんたちの明るい挨拶に自然と微笑みがこぼれます。先生方も
熱意にあふれる若い先生方とともに、私た
ちの恩師もまだ元気に頑張っておられます。
創立 55 年を迎え、わが母校と胸を張って言
える風格も付いてきて、卒業生として大変
うれしく頼もしく感じているところです。
さて、私自身はどうかというと、外見は
年相応に老けてきましたが、中身は大して
成長していないように感じています。これ
は私だけでなく友人に聞いても「たいして
高校時代と変わっていないよね」という人

が多いのでみんな同じように感じているの
かもしれません。そうすると、いまさら後
悔しても仕方ないのですが、高校時代は大
切だったと思うのです。高校時代に精一
杯いろんなことに挑戦して、いろんな経験
をつんでおけばもっと精神的に成長できた
のにと。だから現役の高校生の諸君には、
自分の可能性に限界をつくらずにいろんな
ことに挑戦していつて欲しいと思います。
私自身も「もう遅い」とか「いまさら」と
言うことを使わずに「まだ遅くはない」
そう言い聞かせて頑張ることにしています。
年齢がいくつになってもすごい人がいるも
のですが、最近そう思ったのは、京セラ名
誉会長稲盛和夫さんの日本航空 JAL の再
建の話を聞いたときでした。盛和塾という
稲盛さんの経営哲学を学ぶ会に入っている
私は、稲盛さんから直接話を聞く機会も
幾度となくありました。日本航空は多額の

負債を抱え、会社更生法の適用を申請しま
した。つまり倒産したのです。皆さんも承
知の通り、日本航空は日本を代表する企業
のひとつであり、華やかなイメージを持つ
会社であっただけに、そのようなニュース
は社会的にも大きな反響を呼び、マスコミ
などでその動静が連日大きく報道されまし
た。なかには日本航空は倒産して当然だと
か、再建は不可能だとか、たいへん厳しい
ものも数多くありました。そのような中、
稲盛さんは政府と企業再生支援機構から日
本航空の会長に就任してほしいとの要請を
受けます。航空業界はまったくの素人、年
齢的にも 78 歳と高齢です。友人や家族はも
ちろん反対、しかし悩みに悩んだ末、この
要請を受けられます。ところが入ってみる
と日本航空はひどい状態で驚くことばかり、
民間企業ですから、実績数字をベースにし
た経営をしていかなければなりません。が、
その数字が数ヶ月遅れでしか出てこない。
また、経営幹部たちでさえ採算を良くしよ
うという意識が希薄で、さらには、誰がど
の収益に責任を持っているのかということ
すら明確になっていない。加えて、倒産を

したという危機感も薄ければ、再建に向けて一致団結し、死に物狂いで頑張ろうという熱気もあまり感じられなかったそうです。稲盛さんは日本航空の精神的支えとして週に1、2回出社して頂ければ良いと言われていたにもかかわらず、これはダメだ、全く会社の体をなしていないと、ホテルに泊まり込み、毎日出社して、会社内を歩き回り、社員を教育し、2日以上もかかる月次の業績報告会で細かい数字にまで目を通し、説明を求めると言うことを続けられました。その甲斐あって、たったの2年半で再建を完了し、2000億円以上の利益を産む体質になったのです。そのような稲盛さんの姿は、凡人の私から見ればスーパーマンのようにしか思えない気力です。

なにがそんなに稲盛さんの熱意を引き出すのか、私なりに考えてみました。そこにはまず第一に日本航空で働いている人の幸せを願う気持ちがあったと思います。その他にも大義名分はいろいろあったと思いますが、社員の幸せを願う、それが経営者として一番のモチベーションだったのではと。ただ、幸せと言うのは、倒産せずに社員が

路頭に迷うことがないということだけでなく、厳しい指導と何のために生きるのかと、言うことを徹底的に教え込むことだったのではないかと思います。私も私たちは何のために生きるのか、人生も半ばを超えると考えます。楽な人生がいい人生なのか、苦しいことから逃げるのがいい人生なのか。お金があるから良い人生なのか、時々考えます。最近はいろんな経験をして、自分を磨くことで精神的に成長していくことこそが幸せなのかなと思うことがあります。自分を磨くのは楽をしていては磨けません。

仕事していると嫌なこと、困難なことも多くあります。しかもそれから逃げるわけには行きません。そのことで少しずつ成長させてもらっているのかもしれない。仕事をすることで人間的に成長して行けるのではないかと思います。目の前の問題から逃げずに正面から当たっていく、そんな人生をおくれたら幸せになれるような気がします。難しいことですが、すこしでもそうできるように生きて行きたいと思います。ありがとうございます。

熊本学園大学付属高等学校新校舎建築

建設実行委員長 栗原徹

本校は新校舎建設へ向けて、現在、準備を進めているところです。校舎建設に関わるこれまでの経緯をご報告いたします。

現在の付属高等学校校舎はH25年で、第1棟築後47年、第2棟41年、体育館33年、第3棟20年を迎えます。この10年間程は、

外壁塗装・内装・屋根防水加工工事を実施し、2011年のゲリラ豪雨の際には横壁からの雨漏りが確認される状態でした。特に本館第1棟は耐用年数がH28年には50年を越え、耐震性能も万全とは言えない状態です。また、平成23年に設立された付属中

学校 1 期生が高校へ進学し高校 2 年生になる、平成 27 年度以降になると、現在の校舎では内部進学生と外部進学生を合わせた生徒を収容することが難しくなります。このような状況から、第 1・2 棟校舎建て替えを検討する委員会が、昨年 10 月に高校内に設置されました。委員会は建設準備委員会としてスタートし、理事会での建設承認後は建設実行委員会と名称を変え現在に至っています。

準備委員会では、新校舎建設に当たって次のようにコンセプトをまとめました。

生徒にとって学校は学習の場であるとともに、豊かな生活の場として、潤いとゆとりある、健康的で安全な場でなければならぬ。そのためには生徒の健康への配慮、校内の快適性が必要である。また、省エネルギー化、自然エネルギーの活用、緑化などエコスクール化を図り、学校の施設自体が環境教育の場として活用されなければならない。次に、生徒達の学習・生活に必要な空間及び環境を確保することが出来るように、適切な部屋構成、空間配分を勘案し、

また今後の IT 化等に対応できるように、高機能かつ多機能な施設整備が必要である。その他にも少人数指導、習熟度別学習、選択授業などを効果的に行える多様な学習形態にも対応できなければならない。

次に、新校舎のイメージを次のように考えました。場所としては多目的グラウンド内の付属中学校寄りとし、新校舎との間に中庭を挟む。延べ床面積は現在の第 1・2 棟 5500 m² に対して 7500 m² を想定する。これはコンセプトにある理念を実現するために必要な条件です。また、全てを一斉に建て替えるのではなく、今回は現在の第 1 棟、第 2 棟のみで、第 3 棟、体育館は継続使用する。そこで、第 3 棟と新校舎、更に中学校校舎は空中通路でつなぐ。第 1・2 棟跡地はグラウンド及び駐車場になる予定。

校舎建設コンセプト、新校舎イメージに加え、財政的な見通しを含め、理事会より校舎建設に対して平成 25 年 3 月 28 日に最終承認を得ました。現在、基本設計を終え、

これから、実施設計へと進み、施工業者の選定、施工、そして H27 年 3 月竣工を目指しています。

今回の建て替えにより、中学校と高校はこれまで、一旦下足に履き替え、雨天時には傘をさして移動していたのが、よりスムーズにお互い行き来ができるようになります。中・高の建物が空中通路で結ばれることにより、中・高間の距離が物理的に縮まるばかりでなく、中高一貫校としての教育の連携を更に深めることができます。今後中高一貫校として発展していくためには、施設も含め、様々な課題をクリアしていかなければならないでしょう。この新校舎建設を更なる前進の一步とし、生徒達にとってより充実した教育の場になることを願って、平成 27 年竣工を目指して取り組んでいきます。



『手紙』

生徒部長 山下和文

その人と、手紙のやりとりをするようになったのは、今年の6月に入ってからである。時々、新聞の投稿欄に載る、その人の紡ぐ文章が気になっていた。

思い立って、一方的な手紙を書いた。

「天草市」とだけしかわからない住所を記した手紙は、当然のように返送されてきた。ひよっとしたらと思つて車を走らせ、本渡の郵便局前のポストに投函した。中の職員に「この人を知りませんか？」と、僕には尋ねる勇気がなかった。「知りませんね。それだけの住所では届けられません。」と冷たく言われるのが怖かったからである。

果たして、「お願いですから、届けてください」と祈りながら封筒の表に書いた手紙は、その人に届いた。僕の心は、こころ優しき郵便配達人によって、その人に届けられたのである。

いただいた最近の手紙の一部を紹介したい。校誌『託麻野』のために書いた『ファインダーの向こう側』の原稿と、関連する写真を送った時の手紙への返信である。

一日と秋が深くなっています。

九月の終わり、荒廃田の草刈り、草焼き。氷水を提げながら、随分疲れました。立っているのが辛く、時々畦に休んで、やっときれいになりました。体調も少し崩れ、病院に行きました。やはり年齢には勝てません。

「あるがままを受け入れるしかない」

たしかにそうですね。今日のことは今日にまかせて、残りの人生の時間を生きたいと思えます。

『置かれた場所で咲きなさい』という本を読んでいます。月日の早さにおどろかさ

れます。無駄な時間も費やしている気がします。

先生は随分いろんな行動をなさるのですね。私には地名も場所も分からない遠い異国の地。どうぞお身体に気をつけて下さいね。

若い頃、満州に憧れました。旧友も住んでいたし、従姉も働いていたので、異国情緒に憧れたけど、結核におかされて帰国した友もあり、父が病気を恐れて（兄も亡くして）絶対反対でした。

韓国を思い出させていただきました。京城（ソウル）には叔母一家（洋服仕立て）がいて、女学生の時に二回、夏休みに行きました。関釜連絡船で八時間、汽車で八時間かかりました。東洋一を誇る博物館に圧倒されたこと。映画『支那の夜』の入場に長い行列で待ったこと。もの云う映画におどろきました。そして、李王殿下のおやしきの水蓮の美しかったこと。何十年経っても、忘れ得ません。昭和十二年のことです。ニュージージランドの、その日本兵のことが胸に迫りました。私は娘たちと鹿児島に旅して、知覧の特攻記念館を訪れた日を思

い出します。そして、投稿文で触れたあの米兵のこと。

「おそろしかった！」今でも口にして、妹と二人であの日を語ります。誰も知らない、二人だけの「あの日」です。

原爆が投下された日は、当時役場勤めの私たちの目を射るような光がさしこみましました。全員外に出てみたら、島原上空にあの「きのこ雲」がゆっくり浮かんでいました。長く生きて、筆舌に尽くせないことばかりです。

■ 広島研修報告

■ 中学二年生

去る十月三十日から二泊三日の日程で広島研修が実施されました。さわやかな気候に恵まれ、全員元気で有意義な研修となりました。百聞は一見に如かず、最初の印象を大切に、というピースボランティアの方のアドバイスに従い、最低限の事前研修で広島に臨みました。「今まで、たくさん学校の案内をしています、こんなに熱心で、反応がある生徒さんたちは初めてです。」と原爆資料館のボランティアの方からお褒

その人は、もうすぐ九十歳になる。その人と出会えた奇蹟を、僕はこれ以上ないくらいに大切にしたいと思う。

その人の家は少し高台にあつて、その場所からは八代海の島々が見渡せる。

僕は時々、光に満ちたその海の風景を、静かに眺めるその人の姿を想い浮かべる。



めの言葉をいただき、大変誇らしく思いました。原爆が投下されてからもうすぐ70年。当時の様子を体験した方から直接うかがう機会も、殆どなくなることでしょう。そんな中で、バトンを渡された私たちは、どう生きればよいのか。一人一人真剣に考えるきっかけになりました。

また、そのほかにもたくさんさんの学習をして帰ってきました。以下は、各班の記録係がまとめた報告書の一部です。

十月三十日（水）

朝七時。広島研修は熊本駅に集合することから始まりました。みんなが集まった後、出発式が行われいよいよ研修がスタートしました。自分たちが乗る電車が来るとみんなは大はしゃぎ！みんなパシャパシャと写真撮っていました。新幹線は一分間しか停まっていません。ドドドド……。意外と新幹線は居心地が良かったです。みんな楽しく写真を撮ったり、話をして過ごしていました。

広島に着いてすぐ市電に揺られて平和公園へ。まずは資料館をHPV（ヒロシマピースボランティア）の方たちに案内してもらいました。衝撃的な事実の連続で、それを一つでも多く熊本へ持って帰ろうとみんなメモをたくさんとっていました。その後は一旦休憩をとってみんな弁当を、休憩が終わると今度は慰霊碑巡りをしました。いろんな人のための慰霊碑があつて、その中に「国境のない」世界地図が描かれた鐘があり、代表の生徒が鳴らしました。たくさんの人に響くことを願って。

ホテルに到着し、新井さんの講話を聞き

ました。私が一番印象に残った言葉は、「死んだのではない、殺されたのだ!」という言葉です。新井さんがこの言葉を一番に言われたとき、新井さんの表情は眉間にシワが寄り、暗いものでした。そして最後に、「広島のパトンは繋いだ」と言われていました。私はそのパトンを重く感じました。

一日目のホテルは、広島市文化交流会館! とても綺麗なホテルにみんなテンションMAX!!!!!! ごはんは何とバイキング♪しかも、デザート付き! 男子も女子もがつついていました(笑)。就寝時は各自の部屋で盛り上がっていました。中には、恋話や噂話に熱中し過ぎてあまり眠れなかった人達もいましたよね……。まあ、こんなテンションが上がるホテルじゃ仕方ないですね(笑)。二日目の活動も楽しくやっています。

十月三十一日(木)

第一術科学校とは、海上自衛隊の学校で、当時は男子の憧れの学校でした。太平洋戦争時には、な、なんと生徒が三千人を超え

ちゃったそうです……。そんな素敵な学校を見学しました! 中は学校と思えないほどキレイでした。展示コーナーには、軍服や武器、遺言など貴重な物がたくさん展示してあり、みんな興味深そうに見ていました。第一術科学校から帰る時、海上自衛隊の方が敬礼して下さいました。かつこよかったなあ……。

世界遺産の厳島神社に、鹿に、みんなの口からは感嘆の声が続出! 厳島神社はちょうど潮が干いていて海の中にたたずむ大鳥居を見ることができなかったのは残念でしたが……。その後の自主研修では各班、事前に計画したルートを記念写真を大量生産しながら見学して回りました。紅葉まんじゅうの試食にはみんな大満足だった模様(笑)。自分への珍土産(陣笠や刀のような傘)を買ったたりと思いいの宮島を過ごしたようです。

二日目に泊まったホテルは「弁天の宿いつくしま」といいます。ホテル内の床は全部畳が敷かれてありました。もちろんエレベータとお風呂の中まで敷いてありました。夕食は各班員ごとで一緒に食べました。



熊本学園大学附属中学校 広島研修旅行 海上自衛隊第一術科学校 平成25年11月1日

十一月一日(金)

三日目の朝は、二日目と違い六時起床でした。でもみんな、二日目より素早く起きていました。予定が二日目より早く組まれていたため、朝食やホテル出発が早くなっていました。全員しつかり時間通りに行動することができました。朝食はバランスがしつかり組まれていてとても美味しかったです。最終日なので集中して取り組めたいと思います。

マツダミュージアムでは、まずビデオで大まかな車をつくる作業の工程を学びました。その後は展示物を見学。懐かしい車や、まだ販売に至っていない未来車に大興奮する人もいました。マツダ独自のロータリーエンジンの説明では「すごいこと」なのだということは素人の私にも分かりました。実際に車をつくっているところを見学した時には、流れ作業のスマートさとロボットの活躍に感激。見学後に車に乗り込んでの撮影会もとても興奮していました(笑)。

三日目の昼食ではお好み焼きを食べました。私たちは、「桃太郎」というお店で食べました。そのお店のお好み焼きには、焼

きそばの麺とところろ昆布が入っていました。私は今までお好み焼きがあまり好きではありませんでした。お好み村のお好み焼きを食べた後からは大好きになりました！そのくらい美味しかったです！最後にお店の人から「桃太郎」のシールをもらいました。ちよつと気に入ってます♪

造幣局では、私たちが日頃使っている硬貨を造るところを間近で見ることができました！造る過程は見ていてとても面白かったです！見学が終わった後は、記念硬貨を買ったり、日本の古いお金が飾ってある部屋でその歴史について見学しました。みんないつも使っているお金が造られているところを見ることができて、さらに身近に感じたと思います。なかなかできない体験なので、ちゃんと覚えておきたいですね！

新幹線を待っている間、さすがにみんなも疲れているらしくキャリーバックに座っている人も多く見られました。新幹線に乗るときはお土産が増えていた分、行きよりも苦労しました。帰りの新幹線の中では広島研修で楽しかったことや学んだこと、旅館であったことなどを話し、思い出話に華

が咲きました。熊本駅に着いた時にはみんなホッとした様子でした。やっぱり地元がいいなとつくづく感じました。

